



九月二日夕刊

近來食糧問題が我が國民殊に政界に於て真剣に考へられるやうになつたことは我々の誠に喜ばしく思ふ所である、從來としても政黨などは最も農村のこととに重きを置きて農村の救済農業の振興といふことを主要なる政策として掲げぬことはなかつたが然も未だ食糧問題に對して十分力を注いだものとはいはれないのみならず動もすれば閑却されんとする傾向すらないでもなかつた然るに近來人口問題と共に食糧政策が朝野の問題となり各政黨は競つて此の

悲觀論は間違  
食糧問題に  
悲觀論は間違

問題を新政策として掲げる  
ことに努力するやうになつたのは誠に當然であるが結

構なことである而して人口問題と食糧政策との關係に就て今更喋々する要もない

●殺虫消毒防臭乳劑の世界的新發明

●乳劑・カルシン

人口の増殖は國家の發展上多々益々歡迎すべきであつて之れを唄唱すべき等の理由を見ないのであるが唯

就て今更喋々する要もない

現在にも年々三百萬石から

の米が不足する割合になつてゐて此の不足分をば外

人口に對して如何にして食

糧を供給すべきかといふこ

とは今日をまつまでもなく

帝國の最も重大なる國策の

一つでなければならない

(つづく)

宇佐美藥局

平町田町〔電話五五一番〕

定價

五千分一本

金八拾錢

製造元

東京微生物研究所

機能

所殺菌

害虫驅除

植物等

不潔病

及卵殺死スル

一、殺菌其他三用ヒラレモ肥料効力ニ化ナク却テ殺虫ノ外完全ナリ

殺菌アル故農業施肥上頗ル安全ナ

# 平町電話通報御開通

|             |            |            |             |           |                    |              |           |           |          |         |              |          |           |
|-------------|------------|------------|-------------|-----------|--------------------|--------------|-----------|-----------|----------|---------|--------------|----------|-----------|
| 七〇八 縍社子鍬倉神社 | 七一〇 磐城佑賢學舍 | 七一一 橫山彰介商店 | 七一二 斯ガノヤ提灯店 | 七一六 馬目徳三郎 | 七一七 橋本屋商店          | 七一九 駒澤(櫻町)商店 | 七二〇 高田清一郎 | 七二一 伊澤谷丈作 | 七二二 麻生川顯 | 七二三 仲間顯 | 七二四 高田清一郎    | 七二六 柴田徳二 | 七二七 日進堂支店 |
| 番號          | 架設者        | 番號         | 架設者         | 番號        | 架設者                | 番號           | 架設者       | 番號        | 架設者      | 番號      | 架設者          | 番號       | 架設者       |
| 洋品足袋卸商      | 舊城跡(櫻町)跡   | 平驛前新道      | 四丁目三三       | 神具佛具造花製造  | 舊城跡(櫻町)五           | 新根井藤町馬       | 味噌醤油類商    | 材木町三二     | 田中五郎     | 仲間顯     | 盤崎屋號(鎌田町二十四) | 日進堂支店    | 島田藤吉町吉    |
| 肥米穀花澤久支店    | 古鍛治町九○     | 坂勝         | 二丁一         | 辯護士酒井喜代正  | 石城郡内郷村境新町(尼子亭前)三丁目 | 山田麻袋商店       | 時計及貴金属眼鏡  | 周旋業       | 高野虎三郎    | 七三三     | 辯護士酒井喜代正     | 七三一 長瀬文造 | 新田町一○     |
| 料           | 穀          | 坂勝         | 小路          | 物產商高野虎三郎  | 海陸商高野虎三郎           | 七三五          | 時計及貴金属眼鏡  | 内科小兒科     | 七三六      | 七三七     | 七三九          | 七四一      | 七四二 堅田欽次  |
| 理           | 穀          | 坂勝         | 小路          | 三國屋號(三丁目) | 三國屋號(三丁目)          | 七三三          | 時計及貴金属眼鏡  | 丁院長遠藤松吉   | 金光堂時計店   | 七三六     | 七三七          | 七三九      | 七四一       |
| 店           | 穀          | 坂勝         | 小路          | 高野虎三郎     | 高野虎三郎              | 七三五          | 時計及貴金属眼鏡  | 内科小兒科     | 七三六      | 七三七     | 七三九          | 七四一      | 堅田欽次      |
| 尼忠          | 花澤久支店      | 坂勝         | 小路          | 辯護士酒井喜代正  | 辯護士酒井喜代正           | 七三三          | 時計及貴金属眼鏡  | 内科小兒科     | 七三六      | 七三七     | 七三九          | 七四一      | 堅田欽次      |
| 忠           | 花澤久支店      | 坂勝         | 小路          | 辯護士酒井喜代正  | 辯護士酒井喜代正           | 七三三          | 時計及貴金属眼鏡  | 内科小兒科     | 七三六      | 七三七     | 七三九          | 七四一      | 堅田欽次      |

## 山炭は増しても 純利益は減る一方

上層部を掘り盡した爲め

採炭費が膨張して

諸掛費 排水費等に

石城郡下好間、福島、入山

磐城、藤原の五大炭礦の年

産額の約五割を出炭し石炭

界の恐慌時代ともいふべき

炭價暴落の昨今六分以上の

株主配當を持続してゐる磐

城、入山、兩炭礦の本年上

半期の業績を見るに

▲入山探炭會社上半期の

出炭量二十四萬噸これが

販賣利益金二十二萬八千

圓で拂込資金に對し一割

七厘の利益率を擧げてゐ

るが前年同期に比すれば

出炭量に於て三萬噸を増

加してゐるが利益金は二

萬圓の低減となつてゐる

▲磐城炭礦會社上半期出

炭量六十八萬六百二十六

頃これが利益金五十八萬

五千六百五十七圓で拂込

資金に對し一割二分八厘

の利益率を示してゐるが

前年同期に比し出炭量に

於て十七萬噸の増加を示

してゐるのに反し利益金

に於て七萬五千圓の減額

となつてゐる

兩炭礦とも相嘗古くから採

炭してゐる關係上昨今では

地下五千尺以下の石炭は全

部採掘し盡し何れも八千尺

以上の奥地から採炭する結

果勢ひ

不振による炭價下落並に需要激減は勿論であ

るが採炭費の膨脹もまた間

接の原因となつてゐる全く

兩炭礦とも相嘗古くから採

炭してゐる關係上昨今では

地下五千尺以下の石炭は全

部採掘し盡し何れも八千尺

以上の奥地から採炭する結

果勢ひ

## 勤儉節約宣傳

その日毎に

## 鍵を握らるゝ

主婦方に獎む

平町役場にては「一家經濟

の鍵を握らるゝ主婦方に獎

む」と題し左記個條書きの

印刷物を各區長に配布し其

の趣旨の徹底を期して居る

一、一家經濟に關する支

出記帳を明にすること

二、衣服其他は洗濯並に

修理を第一とすること

三、食物は安いものにて

も營養分多きものあり之

を選むこと

ねること

(一日勤儉節約日) 勤儉節約の趣旨を家族と談合すること(二日廢物利用日) 使用すること(四日能率増進日) 仕事を精一杯何なりとも廢物の利用を努めて居る

(五日煙草の節約) 煙草は一本にても節約すること(六日酒の節約) 酒の深呑を爲さぬこと(七日貯金日) 一

## 磐城水產に

國庫獎勵金

石城郡小名濱町磐城水產工

業株式會社ではかねて冷藏

庫を新設すべくその筋に獎

勵金の交付方申請中であつ

たが廿八日付農林大臣から

二萬五千四百三十圓を交付

する旨指令があつた因に同

會社の新築工事は豫定の如

き

西小野田字長生水要八長女

娘二人が

東京にあこがれ

家出して捕る

平町人事

金出生

△新川町一丹野アサ(五六)

△死亡

△白銀町二二諸根正二氏二女富士枝

△胡麻澤一六當時茨城縣多賀郡

南中郷町中村教氏三女里子

△抵牾小路一七矢野弘平(三六)

であつた、因に講師は東京女子高等師範學校助教授宮田覺造氏にて其他福島女子師範學校教諭大森孟壽、茨城師範訓導綿引寛、東京市外田端小學校訓導松崎宣司

東京女子高等師範學校研究

科辻イチの諸氏であると

女子高等師範學校助教授宮

産馬畜產協議 石城

郡產馬畜產組合にては十一

午前十時より舊郡會議事

室にて臨時總代會を開催し

大正十五年度歲出入更正豫

算を協議する

▼平町役場の調査

滯納者の多くは

職工と俸給生活者

▼平町に二日間

東京大相撲横綱常の花、大

關大の里の一行は平消防組

後援の許に十二の晴天二

日南町裏埋立地に於て興行

の筈にて木戸は大人一圓、

小人五十錢だが今回の興業

は故人となつた消防小頭箱

崎孝太郎、石川慶太郎、綠

川佐伯、本間金太郎諸氏の

供養にする追善興行にて曾

て他に比例なき七五三土俵

入の古代を用へ供養餅を撒

布する

滯納者の業種別左記の如く

である

△物品販賣業八十七名△

△請負業三名△宿屋六名△

△金錢貸付一名△牛馬賣

買一名△製造業十四名△

職工百十八名△料理店十

三名△飲食店廿一名△湯

屋一名△理髮業一名△俸

給生活者百十五名△無職

卅六名△自由勞動者五十

二名△興行一名△自由業

一名

子鍼倉神社が

迷惑を蒙る事も尠

迷惑を蒙る事も専

<div data-bbox="60